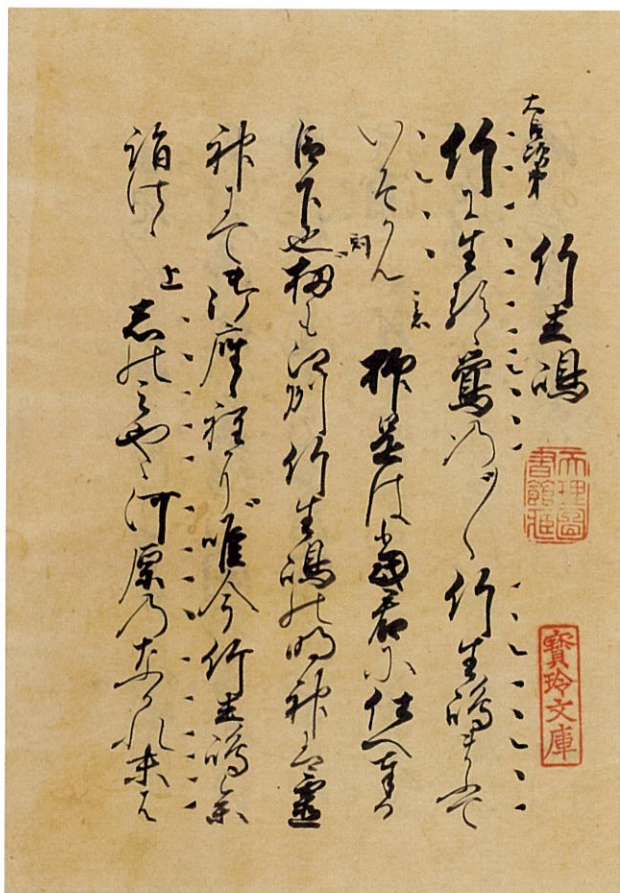


やまとの名品 天理図書館



うたい ほん 謡 本 百二十番 (重要文化財)

鳥養道断節付 24冊
 文禄5年(1596)写
 縦25cm 横17.5cm

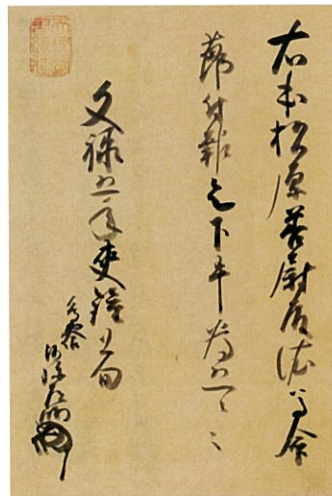
能の舞台では、シテ方やワキ方の動きに目が行きますが、その言葉や台詞に当たる脚本部分の謡といひ、それを書写や印刷などで本の形にしたものを「謡本」と呼んでいます。

本書は、安土桃山時代の能書家鳥養道晰（一六〇二）が、節と呼ばれる拍子や旋律の符号を付けた謡本です。道晰は書家としての能力を生かして、金春流第六十一世宗家の金春太夫喜勝の許で文書の書写や謡本の節付などを行っていました。その間に謡やその節付に熟達し、天正九年（一五八一）に金春太夫から謡の免許を受けました。更に、文禄三年（一五九四）には

豊臣秀次に仕えて、謡の最初の注釈書となった『謡抄』の編集にもかかわっています。

生涯に亘って、金春流の謡本を多く書写しています。文禄五年（一五九六）に杉原善尉の所望によって節付したものがこの本です。百二十番の謡を五番ずつ二十四冊に収めています。本文は数人で書き写され、各冊の末尾には、道晰自ら「沙弥道晰」と署名しています。

用紙は高級な鳥の子紙を用い、各冊それぞれ色替りの表紙に、曲名を散らし書き風に認めた紙片を貼るなど、華美を尽くした



装訂となっています。

当時の謡本に対する需要は多く、書き写すだけでは対応出来なかつたため、道晰は自らが写した謡本を元に印刷・刊行もしています。このような、道晰が書写や印刷によって作成した謡本を、彼の屋号に因んで「車屋本」と呼んでいます。

（天理図書館 大西光幸）

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 ◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ○9月の休館日：18日・29日
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）